

ジャンル	子ども・教育 日本語学習 医療・福祉 労働 災害対策 意識啓発 地域づくり 推進体制の整備 その他
事業名	「MIA 東日本大震災被災外国人支援事業の記録」の作成
団体名	公益財団法人宮城県国際化協会

***** 事業のポイント *****

当協会では、東日本大震災の発災後、多言語での電話相談、被災地への巡回訪問、震災時の体験や不安を分かち合うための「東日本大震災震災を振り返る会」の開催、生活再建に役立つ情報の多言語化など、被災外国人の支援のためのさまざまな取組を行ってきた。本事業では、当協会の震災後の取組に関する記録の散逸を防ぐため、また、大規模災害時の外国人被災者支援のあり方について整理・検討するための資料として、これらの取組についての写真を交えた包括的な記録集を作成・配布し、地域国際化協会等をはじめとした多文化共生推進関連団体において、今後起こりうる大規模震災への対応を考える際の一助としてもらった。

助成年度	平成 24 年度地域国際化施策支援特別対策事業	事業総額	724 千円
------	-------------------------	------	--------

事業の内容、成果等

1. 背景

当協会が行ってきた東日本大震災後のさまざまな取組について包括的にまとめた資料がなく、地域における定住外国人支援を中心的に行う地域国際化協会として、未曾有の大災害後にどのような対応をしたのかを伝える手段が限られていた。

2. 目的

大規模災害時の外国人被災者支援のあり方について整理・検討するための資料として、東日本大震災の当協会の取組についての写真を交えた包括的な記録集を作成・配布し、地域国際化協会等をはじめとした多文化共生推進関連団体において、今後起こりうる大規模災害への対応を考える際の一助としてもらう。

3. 事業概要

MIA東日本大震災被災外国人支援事業の記録『Archive 3.11 宮城県国際化協会 東日本大震災 20 か月の記録』の作成

◎仕様:A4版、カラー24 ページ、モノクロ 53 ページ

◎内容:当協会による東日本大震災被災外国人支援事業の記録

携帯電話を活用した多言語相談／被災地への巡回訪問と個別支援／外国人の立場から東日本大震災を振り返る会／市町村日本語教室及び行政窓口訪問／外国人母親を対象とした子どもの心のケア研修会／外国人県民による観光インバウンド支援プログラム／災害時通訳ボランティア派遣／英文お見舞いメッセージのボランティアによる翻訳／日本語教室再建支援事業／津波被災地と隣接地域の在住外国人を結ぶシンポジウム／外国人による津波被災地の子どもたち応援プログラム／在札幌米国総領事館共催の被災地支援コンサート／仮設住宅居住者のためのイギリス料理講座／故テイラーアンダーソンさんご遺族寄贈文庫翻訳活動／大災害に備えた国別ネットワーク立ち上げ支援／岩手・宮城・福島三県地域国際化協会からの報告シンポジウム 等

◎部数:350 部



◎配布先：地域国際化協会、都道府県多文化共生推進担当課、県内市町村多文化共生推進担当課、その他関連団体
※当協会ウェブサイトにも PDF 版を掲載。http://mia-miyagi.jp/pdf/archive311_mia.pdf

4. 成果等

将来的な大規模地震発生の可能性が指摘されるなか、震災時の外国人被災者への対応や平時からの防災・減災体制の整備の仕方を検討することが求められているが、今回の東日本大震災後の地域国際化協会の取り組みについて、現場の写真を豊富に盛り込んだ本記録集は、他地域にとって有用な資料であると考えられる。送付先からも貴重な資料であるとのコメントをもらっている。

今回の震災を踏まえ、大規模災害時における外国人支援のあり方について検討する機会を設けることが多くなっている。震災直後の多言語での情報提供のあり方が注目される傾向があるが、実際の被災地では、それにとどまらない継続的且つ多面的な支援が求められていたことが、本記録集から読み取ってもらえるのではないだろうか。そうした意味で、この記録集は、震災後の外国人支援のあり方について、より幅広い視点で検討する材料となっていることを期待したい。

また、本記録集をまとめる過程において、ここで取り上げた多くの事業は地域における定住外国人の協力なしでは成り立たなかったということが改めて確認できた。外国人は「要援護者」であるという一方的な見方もあるが、災害時の対応も含めた多文化共生の地域づくりが、日本人と外国人との支え合いの基で成り立つものである、ということ踏まえ、外国人の自助力・共助力の向上を支援する取組みを続けていきたい。